

知っておきたい桂枝茯苓丸の 基本と臨床のポイント

加島 雅之 先生 熊本赤十字病院 総合内科 部長／内分泌代謝科 部長

出典 金匱要略

桂枝茯苓丸の出典は『金匱要略』（張仲景ら・3世紀初頭頃）である。

効能又は効果

比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴える次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身(打撲症)、しもやけ、しみ

古典に見る桂枝茯苓丸

金匱要略(張仲景ら 3世紀初頭頃)

桂枝茯苓丸の原典は、張仲景(3世紀初頭)が著したとされる『金匱要略』である。桂枝茯苓丸は其中で、妊娠中における諸問題を取り扱った婦人妊娠病篇に記載されている。

『傷寒論』と『金匱要略』はいずれも1100年代に、当時の中国の宋の政府が校正出版として出版し、現代に伝わっている。『金匱要略』は「大字本」と「小字本」という違う版で出版されたことが知られている。大字本の系統が「鄧珍本」、小字本が2007年発見された「呉遷本」とされている。

桂枝茯苓丸は鄧珍本と呉遷本のいずれの条文においても、「妊娠中の出血が癥ちようと言われる下腹部の腫瘤性病変によって起こり、癥の治療に桂枝茯苓丸が使用される」と述べられている。

婦人良方大全(陳自明 1237年)

産婦人科の専門書である『婦人良方大全』では、桂枝茯苓丸は「奪命丸」と呼ばれている。本書では、何らかの理由で胎児仮死もしくは胎児死亡が起こり、そのために播種性血管内凝固症候群(DIC)様の病態が引き起こされている時に、奪命丸で死体を体外に娩出させる目的で使っていたことが示されている。

濟陰綱目(武之望 1620年)

濟陰綱目では、「奪命丸は、胎盤が娩出できないものを治療する。併せて胎児が死亡しているものを治療する」と記載されている。

万病回春(龔廷賢 1587年)

万病回春では、桂枝茯苓丸は「催生湯」と呼ばれており、「催生湯、出産中の母体が腹痛・腰痛が出現しているときに、破水しているときに、この方剤を服用する」との記載がある。

このように桂枝茯苓丸は、子宮を収縮させて、胎児・胎盤を娩出させるような目的で用いられていたことがわかる。

叢桂亭医事小言(原南陽 1804年)

桂枝茯苓丸は主に女性の薬として使われていたが、古方派の大家である吉益東洞は晩年に男性にも用いることを記している。さらに、様々な疾病の瘀血関連病態に用いられるようになったのが、『叢桂亭医事小言』に記載されている「甲字湯」である。甲字湯の組成は、桂枝茯苓丸に生姜と甘草を加えたものである。

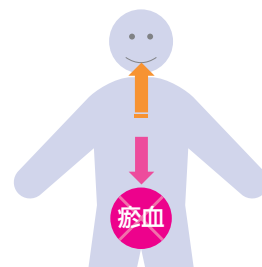
図1 桂枝茯苓丸の方剤解説

【組成】 桂皮4、茯苓4、桃仁4、牡丹皮4、芍薬4

【効能】 活血化癥、温経降気、消癥

【病態】 瘀血(+軽度の気逆)

【症状】 経血中に凝血塊が混じる、下腹部に腫瘤を触れる、冷えて増悪する腰痛・腹痛、組織の変性、軽いホットフラッシュ、軽い燥症、舌下静脈怒張、細絡拡張～破綻



桃仁 《化癥》

牡丹皮 } 《活血》

芍薬 }

桂皮 《温経通脈》

茯苓 《軟堅》

《降気》

桂枝茯苓丸の方剤解説 (図1)

桂枝茯苓丸は、化瘀の作用を持つ桃仁に活血作用のある牡丹皮、芍薬が加わることで血流を改善し、瘀血を除く(活血化瘀)。さらに陽気を通して経絡を温め巡らせ、血液の循環を良くする(温経通脈)桂皮と、硬いものを軟らかくする(軟堅)茯苓が組み合わさり、気を下に巡らせるという意味合いがある。あわせて温めながら気を下に巡らせて血流を改善し、瘀血を除く作用が期待できる。瘀血があるために、気滯が生じ、その気が上逆するため軽度のホットフラッシュや燥傾向が生じる。

血の病証

血の流れが障害・停滞された状態が基本病態となる。血の流れが悪いものを「血瘀」、さらに血瘀が変性した血になった場合に「瘀血」と表現する。桂枝茯苓丸は瘀血を除く薬の代表と考えられている。

● 血瘀(図2)

血瘀の病態では、固定的な疼痛、舌下静脈怒張、細血管の拡張、皮膚の粗造化、臍傍の圧痛、もしくは脈洪(脈に触れると、ゴリゴリと抵抗を感じるような脈)が触れるというような症状が現れる。

● 瘀血(図3)

血瘀から派生して瘀血が生じるが、この場合に血瘀や血

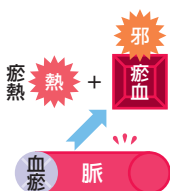
図2 血の病証 - 血瘀 -



血の流れが障害、停滞された状態。外傷や運動不足、邪による障害、他の血の異常、気の異常、また血の運行に強い影響力をもつ肝・心の異常により引き起こされる。また、血瘀を背景に血の変性が起こると瘀血が生じる。

【症状】 固定的な疼痛、舌下静脈怒張、細血管の拡張、皮膚の粗造化、臍傍の圧痛、脈洪。

図3 血の病証 - 瘀血 -



血瘀や脈外への血の漏出、血分での邪正相争に伴い派生する病理産物。組織の変性・破壊・腫瘍形成・内出血をする。血熱と結びつくと瘀熱と呼ばれる。

【症状】 血瘀の症状+腫瘍の形成、出血、組織の変性・破壊、精神症状(ヒステリーなど)。

管の外への血の漏出、あるいは血分での邪正相争に伴い派生する病理産物によって組織の変性・破壊・腫瘍形成・内出血などを呈する。このため症状としては、血瘀の症状に加え、腫瘍の形成、出血、組織の変性・破壊、精神症状(ヒステリー様症状)が現れる。

桂枝茯苓丸の類縁処方との鑑別 (図4)

桃核承気湯

桃核承気湯は、瘀血に熱が加わった病態に用いる処方

図4 桂枝茯苓丸の類縁処方との鑑別

桃核承気湯



瘀血+熱:

月経痛・凝血塊、色素沈着、血栓、出血傾向、激しい陽性症状、便秘、粘血便

- 瘀血に熱が結びつき、激しい陽性の精神症状が出現。
- 激しい下腹部痛、便秘、粘液便、出血傾向が生じる。
- 急性の瘀血と熱を便から取り除く。

通導散

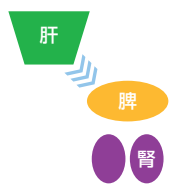


瘀血+気滯:

外傷による皮下出血、疼痛、胸腹部の煩満、色素沈着、便秘

- 瘀血(特に筋骨格系)と気滯・熱が結びついている。
- 腫脹・疼痛、胸腹部の煩満感がある。
- 瘀血と気滯・熱を便から急激に排出する。

当帰芍薬散



肝気横逆:

腹部の引きつるような、差し込むような痛み

血瘀:

月経痛、末梢の冷え

肝血虚:

目のかすみ、爪・髪傷み、月経量低下

脾気虚:

下痢、食欲不振

水湿:

浮腫、白色帯下の増加

- 脾気虚・水湿を背景に、肝気横逆、血虚・血瘀を呈している。
- 下痢、腹痛、浮腫、帯下の増加、月経痛、手足の冷え、目のかすみ、爪や髪のもろさ、月経量の低下。

加味逍遙散



肝の気滯:

イライラ、抑うつ

肝の血虚:

肌・髪の色つや低下、月経量低下、目の疲れ、筋痙攣

気の熱化:

易怒、興奮などの陽性症状

- 肝の気滯と血虚を背景に気が熱化したものを発散させる。
- つまり、イライラと潤いの低下を背景に興奮や陽性の精神症状になっているものを発散させて除く。

知っておきたい桂枝茯苓丸の基本と臨床のポイント

ある。具体的には、瘀血の症状である月経痛、凝血塊、色素沈着、血栓、出血傾向に加えて、激しい陽性の精神症状で錯乱をきたすなど、強い興奮などの症状が現れる。これを便中から一気に排泄させる大黃が加わることで便秘や粘血便を呈するような消化器症状にも用いる。

● 通導散

通導散は主に筋骨格系の瘀血と、気滞・熱が結びついてくる症状に用いる。すなわち、腫脹・疼痛、胸腹部の煩満感に用いる。瘀血と気滞・熱を便から急激に排泄させる目的で用いるが、日本の臨床ではごく少量を長期に服用することで瘀血に伴う疾患の予防・体質改善の目的で使うこともある。

● 当帰芍薬散

当帰芍薬散の基本となる病態は血虚と血瘀の症状である。さらに肝血が不足するために、肝気の流れが上手く調節できなくなり、これが脾にも影響(肝気横逆)して、脾気虚、水湿が現れる。すなわち、脾気虚・水湿を背景に肝気横逆、血虚・血瘀を呈しているのが当帰芍薬散の病態である。

● 加味逍遙散

加味逍遙散は、肝の気滞と肝の血虚が同時に存在し、それが熱に変わっている病態に用いる。肝の気滞は、イライラ、抑うつなど精神症状が中核となる。肝の血虚は、肌や髪の色つやの低下、月経量の低下、目の疲れや筋痙攣が生じる。この結果、気の流れが悪くなり、熱に変わり、興奮性の精神症状として、易怒、興奮などの精神症状を呈する。つまり、イライラと潤いの低下を背景に興奮や陽性の精神症状となっているものを発散させながら取り除くのが加味逍遙散の方意である。

現代医療における桂枝茯苓丸の臨床応用

● 症例1 56歳 女性、主訴：頭痛(図5)

原南陽の「甲字湯」の解説にある、悪天候時の頭痛に桂枝茯苓丸が用いられることを応用した方法である。悪天候時に頭が痛くなるケースの一部に頸椎捻挫を起点としていることがあり、そのような場合は桂枝茯苓丸を用いてみることもポイントの一つである。

● 症例2 29歳 女性、主訴：尋常性痤瘡(図6)

典型的な瘀血の所見が揃っている症例である。特に、血

瘀と瘀血の鑑別のポイントに凝血塊が月経血に混じる、あるいは色素沈着を呈するのは血瘀よりも瘀血をさらに示唆する所見である。顎周囲のあまり発赤が強くない色素沈着を呈する尋常性痤瘡は、いわゆる大人ニキビと俗称されるが、これも瘀血の特徴と考えられる。

● 症例3 62歳 女性、主訴：下肢静脈瘤(図7)

下肢静脈瘤に対し、桂枝茯苓丸が有効であった症例であ

図5 症例1 56歳 女性

【主訴】 頭痛

【現病歴】 40歳代に交通外傷で頸椎捻挫に罹患してから、雨の前になると、頸部～頭部の重さとズキズキするような頭痛が出現するようになった。また、肩こりもつらく、雨の前になるとこり感も増す。

【現症】 頭痛時に五苓散を使用すると頭痛が軽くなるが、十分ではない。五苓散を継続服用しても頭痛の頻度はあまり減らない。舌診：舌下静脈怒張あり。

【弁証・処方・経過】 瘀血頭痛と弁証し、桂枝茯苓丸を処方した。桂枝茯苓丸の開始後約2週間で頭痛の頻度と程度が減った。また、肩から頸部にかけてのこり感も軽減し、頭痛時に使用する時の五苓散の効果も良くなった。

図6 症例2 29歳 女性

【主訴】 尋常性痤瘡

【現病歴】 25歳頃から顎周囲の痤瘡を繰り返すようになり、色素沈着が残るようになってきた。外用薬の使用では十分に改善せず、漢方治療を希望して紹介受診した。

【既往歴】 子宮内膜症に伴う月経困難症。

【現症】 痤瘡は暗赤色で、顎周囲に集簇しており、周囲に色素沈着をきたしていた。また、月経直前に皮疹は増加傾向である。月経痛は、月経初日から3日目まで疼痛が強く、鎮痛剤が必要である。月経血には凝血塊が認められている。

舌診：舌下静脈怒張あり。

腹診：左臍傍の圧痛および皮下に索状物が触れる。

【弁証・処方・経過】 瘀血と弁証し、桂枝茯苓丸を処方した。桂枝茯苓丸を開始してから、月経時に痤瘡の増加は認められなくなった。開始後2回目の月経から月経痛が改善し、凝血塊も混じらなくなり鎮痛剤が不要となった。同時期より痤瘡は目立たなくなり、色素沈着も軽減した。

図7 症例3 62歳 女性

【主訴】 下肢静脈瘤

【現病歴】 2～3年前より下肢静脈瘤が目立ち始めた。半年ほど前から静脈瘤の腫脹と疼痛が出現した。手術療法を希望せず、漢方治療の希望で受診した。

【現症】 両側下肢に静脈瘤が目立ち、圧痛もある。周囲の皮膚の発赤は目立たない。

舌診：舌下静脈怒張あり。

腹診：左臍傍の圧痛あり。

【弁証・処方・経過】 瘀血と弁証し、桂枝茯苓丸を処方した。桂枝茯苓丸を開始後1週間で静脈瘤の腫脹が改善し、疼痛は消失した。

る。下肢静脈瘤に桂枝茯苓丸を用いることで、本症例のように服用開始後1週間程度で速やかに腫脹が消褪し、さらに痛みが軽減することも多い。

● 症例4 48歳 女性、主訴：ホットフラッシュ(図8)

夜間に増悪する症状は血の症状と考えられる。本症例は、加味逍遙散では熱を取り切れなかった。瘀血が気の流れを阻害し、その気が上に昇ってきていると考え、桂枝茯苓丸で瘀血を除くことで気の流れの改善を考えた。また、左の肩こりは瘀血で起こることが比較的多いことから瘀血を取り除く治療を試してみる価値がある。

● 症例5 38歳 男性、主訴：皮膚癢痒感(図9)

本症例は、荊芥連翹湯で先行して速やかに熱を除いてから、桂枝茯苓丸の併用で炎症が強まり、血熱が強くなることを防ぐという治療戦略とした。

桂枝茯苓丸の要点 (図11)

桂枝茯苓丸の適応となる病態は瘀血であり、そこに軽度の気逆が伴う。具体的な症候としては、鬱血、月経困難症、月経血中の凝血塊、下腹部の冷えであり、さらに瘀血によって阻害された気の上昇による軽いホットフラッシュや燥症状がポイントとなる。

当帰芍薬散は、血虚、血瘀が目立ち、さらに水湿を伴う場合に用いる方剤であり、すなわち目の疲れ、爪や髪の痛み、月経痛、末梢の冷え、さらに浮腫、白色帯下を伴うような場合に用いる。加味逍遙散は肝鬱化熱(肝の気が鬱滞して熱に変わるイライラ、のぼせ)、脾気虚(下痢・便秘、腹痛)に血虚血瘀(目の疲れ、爪がもろくなる、月経痛)などを伴う場合に用いる。桃核承気湯は瘀血と内熱と便秘がポイントである。瘀血としての月経痛、凝血塊、特に腸管や下腹部にそのようなものがある場合と、内熱としてのぼせ・興奮に便秘を伴う場合が使用のポイントとなる。通導散は同じ瘀血でも、四肢の鬱血、疼痛、皮下出血が中心となり、さらに気滞が生じて、胸腹部の張ったような悶えるようなきつさを伴い、そして便秘があるものに使用する。

桂枝茯苓丸の諸症状への活用

桂枝茯苓丸の諸症状への活用を図10に示す。

図8 症例4 48歳 女性

【主 訴】 ホットフラッシュ

【現病歴】 47歳時よりホットフラッシュが出現し、ホルモン製剤の使用に抵抗があり受診した。イライラなどの情動症状もあり、加味逍遙散を開始した。情動症状は改善し、ホットフラッシュの際の顔の赤み・発汗などは改善したが、夜間の熱感発作は残存していた。

【現 症】 熱感発作が夜間に起こり、その際に動悸がある。左肩のこりが強い。

脈診：左脈弦・渋。

舌診：舌下静脈怒張あり。

腹診：左胸脇苦満軽度、右臍傍の圧痛あり。

【弁証・処方・経過】 肝気鬱結・瘀血と弁証し、加味逍遙散、さらに桂枝茯苓丸を処方した。桂枝茯苓丸を併用開始から、2週ほどで夜間の熱感発作が減少し、左肩のこりも改善した。

図9 症例5 38歳 男性

【主 訴】 皮膚癢痒症

【現病歴】 幼少期からアトピー性皮膚炎での加療を行ってきた。皮膚の発赤・癢痒感・色素沈着が目立ち、漢方診療を希望し受診した。荊芥連翹湯の投与を開始し、2ヵ月で皮膚の発赤・癢痒感が改善したが、色素沈着および上肢の結節性痒疹の癢痒感が残存した。

【現 症】 皮膚の発赤は軽快、全体に浅黒い色素沈着が目立つ。両側上肢に結節性痒疹が散在している。

舌診：舌下静脈怒張あり。

【弁証・処方・経過】 瘀血・血熱内風と弁証し、桂枝茯苓丸、荊芥連翹湯を処方した。桂枝茯苓丸の併用開始3週間から癢痒感が改善し始めるとともに、結節性痒疹が消褪し始めた。

図10 桂枝茯苓丸の諸症状への活用

- 更年期障害(赤ら顔、ホットフラッシュ、肩こり、めまいなど)¹⁾
- 月経前症候群(月経痛、イライラ、肩こり、むくみなど)¹⁾
- 月経困難症(月経痛、過多月経など)²⁾
- しもやけ(凍瘡)¹⁾

1) 木村容子 ほか: phil漢方 72: 16-21, 2018
2) 竹本由美: phil漢方 100: 12-13, 2024

図11 桂枝茯苓丸の要点

- 瘀血(+軽度の気逆): 鬱血、月経困難症、凝血塊、下腹部の冷え(軽いホットフラッシュ、軽い燥症状)

◀他の処方との鑑別点▶

当帰芍薬散: 血虚(目の疲れ、爪や髪の傷み)、血瘀(月経痛、末梢の冷え)、水湿(むくみ、白色帯下)

加味逍遙散: 肝鬱化熱(イライラ、のぼせ)、脾気虚(下痢/便秘、腹痛)、血虚血瘀(目の疲れ、爪が脆くなる、月経痛)

桃核承気湯: 瘀血(月経痛、凝血塊: 特に腸管・下腹部)、内熱(のぼせ、興奮)、便秘

通導散: 瘀血(四肢の鬱血、疼痛、皮下出血)、気滞(胸腹部煩満)、便秘